

ICT を活用した教職科目「生徒指導」の授業展開 ——アクティブ・ラーニングの試み——

内海崎 貴 子*

The Class Practice on the Subject of Teacher Education “Student Guidance” Using Information and Communication Technology Focusing on Active Learning

Takako UCHIMIZAKI

要 旨

本稿では、ICT を活用した教職課程科目「生徒指導」(2016年度開講)の授業実践を取り上げ、授業終了時に実施したアンケートを分析し、「生徒指導」の教授・学習方法としてのアクティブ・ラーニングの可能性を検討した。その結果、①PCを活用した的確かつ迅速な情報収集／共有／内容の把握は事例研究を行う上で効果が見られたこと、②ICTの活用が学習者の能動的な学習を可能にする適切な学習環境設計に寄与したこと、③ICTを活用したグループワークはメンバー間に協働意識を形成し、それがさらなる情報収集やスキルの学習につながるという双方向の学習を可能にしていたこと、の3点が明らかになった。このことから、教職課程科目の中で理論と指導法の習得をめざす「生徒指導」の教授・学習方法として、ICTを活用したアクティブ・ラーニングは有効であると考えられる。

なお、「生徒指導」の授業では、科目設定時から、アクティブ・ラーニングの有効な学習方法のひとつであるグループワークを採用している。2016年度には、初めて授業時にPC教室を使用し、グループで事例研究のための情報収集、発表用の資料作成等の協働作業を実施した。

キーワード：生徒指導、アクティブ・ラーニング、ICTの活用、教授・学習方法

*教授 教育学

はじめに

近年、学校教育現場では、電子黒板やタブレット端末の利用、インターネットによる情報収集など ICT の活用が進むとともに、それらの機器を使用したアクティブ・ラーニングによる授業実践が展開されている。次期学習指導要領（2020 年度完全実施）においても、学校教育への ICT の活用とアクティブ・ラーニングの導入が明記されており、教員を志す学生にとっては、両者のスキル獲得とその教育／学習効果への理解が最重要課題である。これらの課題に対応するため、多くの大学教職課程では、いわゆる「教科教育法」や「教育方法学」／「教育の方法と技術」関連科目を中心に様々な取り組みがなされている。

一方、「教育原理」や「教育制度論」など基礎理論系科目の授業においては、ICT の活用を含めアクティブ・ラーニングの導入が難しいといわれる。また、「生徒指導」や「道徳教育の指導法」関連科目も、科目の基礎理論学習とともに具体的なスキルの習得も目指さなければならないことから、半期 2 単位 15 回の授業の中に、ICT の活用やアクティブ・ラーニングを取り入れることは時間的にも限界がある。

しかしながら、中央教育審議会『これからの学校教育を担う教員の資質向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申）』（平成 27 年 12 月 21 日）によれば、教員養成の課題として「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）の視点に立った指導・学習環境の設計や ICT を活用した指導など、さまざまな学習を展開する上で必要な指導力を身に付けることが必要である」¹とされる。したがって、教員養成課程においては、科目の特性を踏まえながらも、学生の学習過程に ICT の活用とアクティブ・ラーニングの導入が必須である。

以上のような問題意識から、本稿では ICT を活用した教職課程科目「生徒指導」の授業実践を取り上げ、理論と指導法の習得を目的とする科目群である「生徒指導」におけるアクティブ・ラーニングの可能性を探りたい。大学教育におけるアクティブ・ラーニングは、「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称」であり、その目的は「学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る」こととされ、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習の他、グループ・ディスカッション、ダイバート、グループワークが有効な方法とされる²。このような観点を踏まえ、本稿では、アクティブ・ラーニングを「課題の発見と解決に向けた学習者中心型の主体的・協働的な学習」³と定義し、その方法としてグループワークを採用する。

ところで、生徒指導とは、「一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動のこと」であり、「すべての児童生徒のそれぞれの人格のよりよい発達を目指すとともに、学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で興味深く、充実したものになることを目指している」⁴。したがって、生徒指導は学習指導とともに、学校教育における重要な意義を持つものであると同時に、学校の教育目標達成上必要不可欠の機能を果たすものといえる。つまり、生徒指導と学習指導は学校教育を支える両輪なのである。

なお、本稿では『生徒指導提要』（文部科学省）に倣い、「小学校段階から高等学校段階までの体系的な指導の観点、用語を統一したほうがわかりやすいという観点から」、「児童指導」、「生活指導」を含め「生徒指導」と表記する⁵。また、本報告の資料は、原則として中高教職課程科目「生徒指導（中・高）」に関わるものであるが、小学校教員養成課程科目「生徒・進路指導論」の資料も参照した。

1. 「生徒指導（中・高）」2016年度授業概要

2016年度「生徒指導（中・高）」の授業の概要、および学生の学習活動は【表1】の通りである。授業には、毎回とも学生のグループによる学習活動（アクティブ・ラーニング）が入っている。

授業では、原則として前半の40分間に授業内容に関する講義と事例研究進捗状況の確認を行い、残りの50分間を学生の学習活動に充てた。本年度履修学生は史学科、心理学科、日本文化学科、児童教育学科、社会教育学科、生活文化学科の23名であったことから、各グループ3～4名、6グループに分けた。グループはすべて異なる学科所属の学生で構成した。

15回授業のうち、第1回から第3回までのグループによる学習活動はアイスブレイキング、自己紹介、他己紹介などグループ内の人間関係構築の時間とした。この学習活動は、グループ内のコミュニケーションを図ることを主たる目的とするが、一方で、現場での教員チームによる生徒指導／生徒の問題行動への対応のための準備を意図している。なお、第3回の授業終了時に、グループで研究するための事例を中学校・高校各6事例、合計12事例を配布し、次回までに熟読しておくように指示した。

第4回の授業で「事例研究の仕方」を説明した後、各グループは研究したい事例を中・高1事例ずつ選択した。第5回から第8回までの授業は、PC教室において類似例や関係機関の資料収集、パワーポイント（以下、「パワポ」と略記）によるプレゼンテーション（以下、「プレ

ゼン」と略記)資料の作成を行った。その際、アクセスすべきHPとして文部科学省、厚生労働省、法務省、都道府県教育委員会、国立教育政策研究所、警察庁・警視庁・道府県警察署などの公的機関を指示した。PC教室での着席はグループメンバー横並びとし、メンバー間での情報交換や話し合い、作業が円滑に進行するよう配慮した。第8回の授業では次回以降の事例研究報告に備え、メンバー間での役割分担——全員が口頭発表する——を行い、プレゼンで使用するスライドや配布資料はできる限り見やすく、分かりやすく作成するように指示した。

第9回から第14回までの授業では、各グループが研究事例のプレゼン——問題点の抽出、

【表1】

回	授業の内容	学生の学習活動
1	生徒指導とは何か	グループ分け 自己紹介カードの記入
2	生徒指導の組織・運営	アイスブレイキング 自己紹介
3	生徒指導の計画	他己紹介 事例選択のための話し合い
4	児童生徒の指導・援助をするために 問題行動の理解と指導	研究事例の決定 事例研究の仕方に沿った役割 分担
5	生徒指導を活かす教育環境、学校教育活動の中 での生徒指導	PCを利用した資料収集
6	家庭・地域・関連機関との連携	PCを利用した資料収集 パワーポイントによる 資料作成
7	生徒指導の評価	パワーポイントによる資料作成 発表／報告の 仕方に沿った役割分担
8	ケース研究①中学校の事例—問題点の抽出、ア セスメント—	報告事例のアセスメント 対応策の検討 報告 用資料作成
9	ケース研究②中学校の事例—情報収集、対応策 の検討—	中学校事例報告：Dグループ「暴力行為・器物 破損」
10	ケース研究③高校の事例—問題点の抽出、アセ スメント—	中学校事例報告：Cグループ「飲酒の危険性」
11	ケース研究④高校の事例—情報収集、対応策の 検討—	中学校事例報告：Eグループ「深夜徘徊の危険 性」
12	ケース研究のプレゼンテーション 中学校の事 例から	中学校事例報告：Bグループ「出会い系サイト の危険性」
13	ケース研究のプレゼンテーション 高校の事例 から	高校事例報告：Fグループ「不良集団への加入」
14	ケース研究の総括	高校事例報告：Aグループ「薬物の危険性」
15	よりよい生徒指導をめざして	グループ研究の総括 アンケート記入

* 2016年度シラバスと実施した授業内容から、筆者が作成

アセスメント、類似例や関係機関の資料等の情報提供、対応策の提示——を行った⁶。筆者は、プレゼンに対して『生徒指導提要』の関連事項の確認及び対応策に関する情報提供を行い、さらなる研究課題を指摘した。また、プレゼンを聞いている学生にはコメントカードを配布し、意見を記入させ、プレゼン担当グループに渡した。コメントカードには、①提示された対応策がさらに良くなるような意見・情報、②プレゼンについて良かった点と改善点、③わからなかったことや疑問・質問、④感想のうち2項目以上を記入し、氏名を書くこととした。各グループには、コメントの内容を参考にさらに研究を進め、必要に応じてパワポ資料を改善した上で、最終授業時に報告書として提出するように指示した。なお、学生には、コメントカードは最終授業時に各グループから回収し、単位認定の資料とすることを伝えた。

2. グループワークによる事例研究のプレゼンテーション

本節では、6グループの事例研究プレゼンの中から、最初に報告したDグループの発表時（第8回目授業、2016.6.14）と報告書提出時（第15回目授業、2016.7.26）の内容・資料を比較し、ICT活用の視点からその変化・変容をまとめる。その際、Dグループに対する筆者と学生のコメントを参照する。なお、Dグループが担当したのは、中学校の事例「暴力行為（器物損壊）」（概要は、以下の通り）である。

【事例の概要】

暴力的で、友人とのトラブルも多いA男が、肩にぶつかったことで口論になったB男に教科書を投げつけ、当ててしまった。その様子を友人が担任教師に連絡したことから、A男は指導を受けたが、反抗的な態度で壁を叩き、廊下のポスター等を破った。破られたポスターはB男の作品であったため、B男と保護者は被害届を提出することに決めた。A男はB男に謝罪したが、聞き入れられなかった。

(1) Dグループの事例研究プレゼンテーション

Dグループの発表時と報告書提出時のスライドの枚数・構成、収集資料は【表2】の通りである。発表時は、1枚のスライドに多量の情報を掲載していたこと、スライドにイラストやアニメーションの使用が少なかったことなどから、スライド自体が見にくいだけでなく、内容もわかりにくかった。そのため、パワポの配布資料が読みにくく、スライド資料の内容が口頭説明とかみ合わないこともあった。また、類似例として取り上げた横浜市教育委員会の資料は項目だけの提示であり、取り組んでいる事例解決に際して、どのように活用するのが読み取れなかった。「暴力行為」「心的ストレス」「ストレス・マネジメント」などの言葉の定義、基礎

【表2】

	事例発表時	報告書提出時
スライド枚数	10枚（タイトルを含む）	40枚（タイトルを含む）
スライドの構成 *（ ）はスライドの数	事例の説明（1） 問題点・課題（1） 類似例（1） 類似例に対する対応（1） その他の資料（1） 解決課題（4）	暴力行為の定義（3） 事例の説明（7） 問題点の課題（2） 問題解決の課題（1） ・初期対応（4） ・改善点（1） ・解決課題（11） 類似例（2） 類似例の対策方法（8）
資料	横浜市教育委員会『児童生徒の手引き』 岡山県教育委員会『生徒指導対応ハンドブック』 香川県教育委員会『暴力行為を起こす生徒の立ち直りに向けた望ましい指導』 栃木県教育委員会『暴力行為を予防するための方策について』『危機管理マニュアル』 奈良県教育委員会『中学校における暴力行為事象への指導事例集』	横浜市教育委員会『児童生徒の手引き』 国立教育政策研究所『規範意識をはぐくむ生徒指導体制』 岡山県教育委員会『生徒指導対応ハンドブック』 香川県教育委員会『暴力行為を起こす生徒の立ち直りに向けた望ましい指導』 栃木県教育委員会『暴力行為を予防するための方策について』『危機管理マニュアル』 奈良県教育委員会『中学校における暴力行為事象への指導事例集』

*事例発表時配布資料と報告書から、筆者が作成

的資料として『生徒指導提要』の関連項目の確認がなされておらず、40分の発表時間を25分残しての報告となった。

筆者は、①スライドは報告時間1分につき1枚の原則で作成し、イラストや図表、アニメーションを活用すること、②『生徒指導提要』、類似例等の資料を再確認し、解決策へ反映させること、③スライドに入っていない教育委員会等の資料を配布用に作成すること、の3点を指導した。

(2) 学生のコメント

Dグループのプレゼンに参加した学生からは、【表3】のコメントが寄せられた。抽出した記述は、主に発表方法やPC／パワポに関わる指摘である。

良かった点としては、①短時間でたくさんの資料を集め、解決策を考えようとしていたこと、

【表3】

良かった点	改善点	その他
<ul style="list-style-type: none"> 文字の色分けや太さなどの工夫によって、ポイントが明確になった 資料をたくさん集めて、そこからどうすべきか考えていた 全体的に説明がわかりやすく、自分の中で情報を整理しやすかった 事例の説明で、図が入っていてわかりやすかった 発表者の役割分担ができており、連携が伝わってきた レジュメの印刷ミスや質問に即座に対応していた 最初の発表なのに、短い期間でたくさんの教育委員会の解決策を提示していてすごいと思った 短い時間で、多くの問題点や解決策を出した パワポの流れはきれいだった 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的にどういった指導（個人・集団）方法をとるのか、詳しく説明する 学校全体としての取り組みが弱いのではない 解決策に進んでいくにつれ、口頭での説明が多くなり、追いつけないことがあったので、もう少しスライドを増やして、わかりやすくしてほしい A男とB男の関係性が、プリントを見ていないとわかりにくい スライドの文字が小さくて見にくかったので、もう少し大きくする ストレス対処法はパワポにまとめる 具体的な指導方法（法律上必要なことなど）を提示する 解決課題の大きな項目と其中的の小さな項目とは、文頭記号を変えたほうがよい 	<ul style="list-style-type: none"> ストレス・マネジメントという用語を初めて聞いた。根本的な心のストレスをケアすべきということがわかった 被害届を出さなくてよいように、二人を仲良くさせることはできなかったのか 最初のグループだったのに、堂々と発表できていた 粘り強い指導は大変だけれど、続けていかなければならないと思った

* 2016年度「生徒指導（中・高）履修者が提出したコメントカードより、筆者が作成

* 表中の下線は筆者

②文字の色分けや図を使用するなどの工夫により、スライドの流れがスムーズだったこと、③質問や印刷ミスに連携して対応していたことの3点があげられた。改善点は、スライド作成に関わること（枚数が少ない、文字が小さい、記号の工夫）、具体的な指導方法を提示・説明することであった。

また、【表4】は発表後のDグループメンバーのコメントである。学生は、スライド／レジュメ資料の作り方や口頭での説明の仕方などプレゼンのテクニカル上の課題とともに、研究そのものの内容／方法上の問題点に気づいている。

【表4】

メンバー	コメント内容
A	指導や方法等にもっと踏み込んで考えられたら…。もらった意見を参考に、もう少し考える
B	口頭での説明が多すぎた。具体的資料が少なかった。 <u>レジュメの細分化!</u>
C	早口で話しすぎてしまったので、もう少しゆっくり話して、皆に伝わるようにすればよかった。スライドの数が少なかったので、1枚のスライドに字を詰めすぎて見えなくなってしまったのを直したい。もう少し、 <u>内容や指導方法に踏み込んだスライド説明にすればよかった</u>
D	スライドだけに着目しすぎて、自分だけで話す時間が短くなった。他のメンバーが時間をかけて話してくれたのに、自分が短いことで迷惑をかけてしまった。また、原稿ばかり見て、聞いてくれる人の目を見られなかったので、 <u>原稿をあまり見なくても話せるようにしたい</u> と考えた

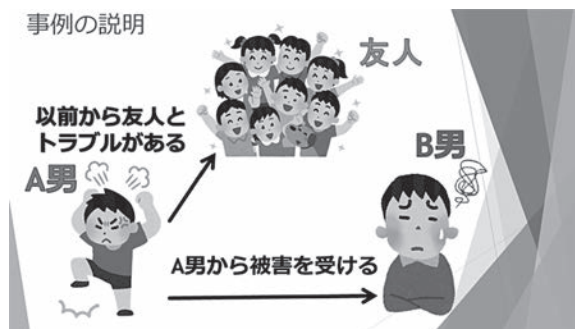
* Dグループのコメントカードより、筆者が作成（表中の下線を含む）

(3) 事例研究報告書（パワーポイント資料）に見られるICTの活用

本節では、Dグループが事例研究で作成したスライド（【表2】参照）に着目し、ICT活用の視点からその変化を整理する。以下に提示するスライドは、Dグループが作成したパワポ資料のうち、発表時には見られなかったスライドの中で、資料作成上の変化を端的に示しているものである。

まず、報告書の資料にはスライド3枚の「暴力行為の定義」が挿入されている。これは、発表時にはなかった資料であり、『生徒指導提要』と国立教育政策研究所HP掲載の「暴力行為」の定義を整理したものである。両者の記述内容が適切にまとめられており、グループはPCを活用して的確かつ迅速に内容の把握を行ったと思われる。

次に、発表時にスライド1枚であった「事例の説明」は、関係図やイラストを用いたスライド7枚に変更されている。以下の事例の人間関係を示す図のスライドに続き、事例の内容を5枚のスライドに細分化し、丁寧な解説を加えている。



さらに、発表時にはスライド1枚の「問題点・課題」、スライド4枚の「解決課題」が「類似例」を挟んで別々に掲載されていたが、「問題点の課題」「問題解決の課題」として19枚のスライドにまとめられ、事例解決の流れが明確になっている。特に、「問題解決の課題」を3段階（「初期対応」「改善点」「解決課題」）に分けて、丁寧に説明している点は大きな変化である。これらのスライドには、インターネットから得た複数の教育委員会の関連情報が、事例解決への応用という視点から適切に取捨選択されており、メンバー間での情報共有と話し合いがもたれたと思われる。

初期対応：教員の声のかけ方

▶①教員の声のかけ方

その場だけの対応ではなく、先を見通して最初の指導をしていたか確認する必要がある。

指導の基準を変えなければならない可能性があるかどうかを見極め、指導の基準が変わらないようにすること。指導の基準を生徒によって変えない、その場その場で違う対応をしないことが大切

(香川県教育委員会)

改善点

- ▶教員が情報を得て理解する
＝生徒同士の問題に関する情報を
まず教員がしっかり理解する
- ▶問題に対応する教員を増やす
＝担任だけではなく他の教員も一緒に
対応する

解決課題

▶加害者生徒のアフターケア①

▶まず、冷静になって謝っていた事実を認めてあげる。
(罪悪感が全くなかったわけではなく、冷静になることができる人格であった。)

▶発達段階（自我の目覚め）

他者との関係を通して自己の存在を見直す時期
他者から自分がどう受け取られているかという問題に直面する
時期

(栃木県教育委員会)

解決課題

▶被害者生徒のアフターケア

▶元々トラブルの多い生徒だというのは分かっていたはず
→他の生徒に大きな危害を加える様な手を出さないように説明。

▶A男は冷静になった後に謝っていたことを確認。

また器物損壊されたことに対しての心的ストレスに関しては
スクールカウンセラーと協力する。

解決課題

▶予防策

▶何か問題行動が起こった際は相応する対処を求めること
を事前に保護者に理解しておいてもらう

▶公共物を大切にするなど、器物損壊に対する公正な考え
方や自己責任のあり方などについて、幼・保・小・中の
連携を図り、一貫した指導方針を確認する。

(横浜市教育委員会)

3. アンケート調査

半期 15 回の授業終了時、履修学生に以下のようなアンケート調査を実施した。本節では調査結果をまとめ、若干の考察を加える。

【アンケートについて】

- 目的：授業改善と授業実践報告・論文作成のための資料収集
- 実施時期：2016年7月22日（金）最終授業時
- 対象者：教職科目「生徒指導（中・高）」履修学生 23 名
- 方法：調査項目に対する自由記述式
- 手続き：回答者の調査票記入によりアンケート回答への承認とみなす
- 調査票：末尾資料参照

(1) PCを使用した情報収集について

効率的に多量の資料を収集できるのが、PCによる情報収集の利点である。その結果、学生は収集した豊富な情報の中から最新の知識を得ることが可能となり、多面的な視点を持つことができる。また、学生はグループで協働して課題解決に当たる過程で、PCのスキルやソフトの使い方も協同で学習している。

一方、情報が多量に集まることから、情報の取捨選択、絞り込み検索・キーワードの設定などを適切に行うことは難しい。情報元の確認、情報の信憑性についても慎重に判断しなければならない。これらは、インターネットによる情報収集の課題であるが、学生にとっては、将来教員として取り組まなければならないメディア・リテラシーの問題でもある。なお、数名の学生はPCの基本的な操作を身につけておらず、学校教育現場に適応できるかという問題が散見された⁷。

適切で正確な情報収集の大切さ、重要性に気づいた学生も多く、PC環境の改善とさらなるICTの活用を希望する学生もみられた。以下、「良かったところ」「困ったところ」「気づいたこと・改善点」「その他・感想」の順で、項目ごとに記述例を示す。

【良かったところ】

① 効率的な、多量の情報収集

「短時間で多くの情報を収集できた」「情報収集の効率が良い」「事例に対する対策や類似例、図など様々な情報が簡単に、多量に得られたこと」「表やグラフをそのまま用いることができた」

② 情報や知識を得ることによる、多面的な視点の獲得

「豊富な情報資源があり、多くの選択肢から必要なものを考えることができた」「最新の情報に当たることができた」「調べていくうちに今まで知らなかった事柄を知り、知識が増えた」「自分たちでとることができないアンケートなどを集めることができた」「情報を多く収集できたので、資料作成の時に、より詳しく作ることができた」

③ PCの技術やソフトの使い方などの共同学習

「PCの技術をいろいろと学べた」「スマートホンだと画面が小さく、容量や通信速度も遅いので、PCで使いやすかった」「PCの使い方をグループの人に教えてもらうことができた」「同じ時間に一人1台のPCが仕えたこと」

【困ったところ】

④ 情報の取捨選択、絞り込み検索・キーワード設定ができない

「情報の取捨選択が難しい」「検索キーワードを絞ること」「担当する事例によっては、教育

委員会の HP にも情報が載っていない時もあり、探すのが大変だった」「多くの情報が出てくるので、絞り込んで検索するのが大変だった。ある程度の機関名などを知っておく必要があった」

⑤ 得られた情報が正確で、適切であるかどうかの見極めが難しい

「情報量が多いので、正しい情報や必要な資料を見極めるのが大変だった」「類似例を集めるとき、必要ではないのに同じようなものばかり集まった」「情報元の確認が難しかった。特に、類似例は、どこに記載されたものか探るのが大変だった」「正確な情報かの見極めと、元の情報を探すのが難しい」

⑥ PC に関する知識技能の欠如、PC 自体の問題

「基礎的な PC 操作が難しい」「情報を集めてもなかなか共有することが難しい」「学内の PC ソフトのバージョンが異なり使いづらい」「パワポを使ったことがなかったため、困った」「大学の PC のバージョンが古かったので作業効率が落ちたり、家で保存してきたものを見ることが出来なかったり、様子が変わってしまうこと」

【気づいたこと・改善点】

⑦ 情報収集の方法

「何が大切なキーワードなのか考えながら情報収集する」「インターネットの使い方を改めて知っておく必要があると思った」「どんなサイトや団体にアクセスすればよいか分かるようになった」「情報をうのみにせず、きちんと深く調べる」「公的機関のものを使用しないといけないが、ニュースなども使用してしまう」

⑧ グループワーク内部の問題

「グループ内で情報伝達を（ラインなどで）もっとすることで、個人の負担が減ったと思う」「一人一人、情報を調べる量が多かったり、少なかったりした」「役割分担があいまいで、もっと明確な役割分担ができればよかった」

⑨ 情報収集の外的環境

「情報を共有する学校のネットワークがほしい」「画面共有ができる環境がほしかった」「学校の PS やモニターが使いにくかった」「パワポのバージョンによって、やりたい演出ができなかった」

【その他・感想】

⑩ 教職への理解

「情報収集をすればするほど『教師って大変だなあ』と思った」「教職の授業内で、PC に多く振れた時間であった。今のうちから情報機器に慣れる練習ができてよかった。また、自分

に必要なスキルも多くあったので磨いていきたい」

⑪ ICT 活用に関するもの

「授業中に PC を一人一台使える時間が多く、とても助かった」「授業の時間にインターネットを使える時間を作ってくれたため、グループで調べものができて、情報共有がしやすかった」「インターネットを使用した情報収集は小学校の頃から情報などの授業でやっていたので、比較的楽しんで収集できた」「パソコンは社会に出ると必ず使うものなので、大学生のうちに触ることができてよかった」「普段、PC を使う授業がないので、とても新鮮だったが、ネット環境が悪い」「同じ資料をそれぞれ見ることができ、共有しやすかった」

⑫ 授業の感想

「教育委員会 HP にアクセスし、情報を集める力がついた」「映像などの資料も活用できればよかった」「教育に関する HP がたくさんあることが知れてよかった」「いつもは本から探すことが多かったので情報が古かったが、新しい情報を知ることができてよかった」

(2) PC 等を利用した事例研究の報告方法について

PC 等を利用した事例研究の報告方法においては、まず、PC・パワポのスキルに関わる課題が浮かび上がった。パワポを使用したプレゼンでは、図表やアニメーションの活用などにより資料の視覚化が可能となり、わかりやすく、印象に残る報告を行うことができる。しかし、スライド・資料の作成に際して、学生間で PC・パワポの知識・技能の差が出やすい。そのことがグループ内での作業に偏りをもたらし、メンバー間での不平等感を生み出している。この点について筆者は、「チームで対応する学校現場の生徒指導では多々あることであり、教員として必要な経験のひとつである」と説明している。

次に課題となったことは PC・パワポによるまとめ方、発表方法である。学生にとって発表用のスライド作成は、集めた情報を整理し、自身やグループの考えをまとめることにつながる。しかし、スライド上に情報を提示するだけでは内容全体が伝わらない。そのため、情報を補足・解説するように報告用の読み原稿を作成しなければならず、学生には、スライド上の情報を改めて文章化するという作業が難しかったようである。また、プレゼンはメンバー全員で行うことが条件であるから、役割分担とメンバー間の連携も重要となる。これらの点についてはグループ間で差が生じたが、画面と口頭での説明をどのように配分するか、イラストやアニメーションの効果的な使い方など、発表方法を工夫するグループもあった。以下、前述の表記方法で記述例を示す。

【良かったところ】

① 図表・アニメーションの活用等，資料の視覚化

「口頭で説明するよりも，パワポで図や文を目にしたほうが印象に残りやすい」「配布資料では色がなかったが，モニターにより色味のある，見やすい状態で発表できた」「画面に映し出されているので，指で示したり，色やアニメーションを使うことで，説明・報告がしやすかった」「口頭だけでなく，視覚化するとわかりやすい」

② PC・パワポのスキルの獲得

「パワポをつくるスキルを身につけることができた」「パワポの作り方を改めて練習できた」「普段使う機会のないパワポを使うことができて勉強になった」「パワポ作成方法などのメディアの活用が見についた」「パワポを使って発表する授業が他にないので，良い経験になった」

③ PC・パワポによるまとめ方，発表方法等学習の効率化

「パワポを用いたまとめと口頭での説明補足で，簡潔に報告することができた」「パワポを使うことで自分の頭の中が整理できた」「パワポでやったので，わかりやすく見やすい発表が多く，発表内容が入ってきやすかった」「事例研究の結果をスクリーンで共有できる」「PCを利用したことで効率が上がった」

④ その他

「皆が自分の担当箇所を説明したので，スムーズに進んだ」「人に見せることを意識することで，わかりやすさを意識して取り組むことができた」「PCを使う発表は小中高ではしてこなかったため，動く画面で説明するのは大変だけど，自分なりにまとめられた」

【困ったところ】

⑤ PC・パワポ知識・技能の差による作業等の偏り

「PCやパワポが使い慣れていないため，使い慣れている人に頼ることが多かった」「PCの技量は人によって異なるため，作業量や質に差が生じた」「PCを扱うことが下手だと大変」「パワポの基本的な操作習得に時間がかかった。パワポの有効な作り方がわからなかったので，手探り」「私にパワポの知識がなく，作るのに苦労した」「PCを使い慣れていないため，アニメーションなど苦労した」

⑥ PC・パワポのバージョン等の問題

「パワポのバージョンが違くと，アニメーションができない」「パワポのバージョンが学内で異なり，うまく確認作業ができないことがあった」「PCによって，ソフトの仕様が違う」「モニターが少し小さかった」「スライドを分担したことにより，パワポ内で形式にばらつきが

出た」

⑦ 発表時の課題

「パワポと発表原稿を作らなければならなかった」「慣れていないため、画面を動かしながら話すのは大変だった」「画面と説明の比率が難しかった。画面に描きすぎても見にくい等」「パワポにのせたことをどれだけ口頭で詳しく説明するか、配分が困った」「画面と口で言う情報がかみ合わない場所が出てしまった」「スライドの枚数が少なかった、文字だけだと伝わらない」

【気づいたこと・改善点】

⑧ スライド・資料作成についての気づき・反省

「スライドの枚数が多くなっても、1枚のスライドに簡潔に少量の情報をまとめたほうが見やすいし、わかりやすいと感じた」「初めに、どのようなスライドを作るかという簡易的な指針を示せば良かった」「見よう！と思える資料作りが重要」「パワポを作ったりすることがあまりないので、良い練習になる。空いている時間にスマホで作っておいたりできるのでよい」

⑨ PC・パワポに関わる課題

「パワポを使えるようになった。役立つと思った」「使うソフトをきちんと確認する」「PC室での発表のほうがよかった」「PCとモニターのつなげ方がわからなかった」「学科のPCと教室のモニターがつながらなかった。事前に確認しておけばよかった」

⑩ 発表時の課題

「パワポと内容をどちらも覚えるくらいやっておくとスムーズにできる」「もう少し情報収集に力を入れて、発表を迎えたかった」「パワポを使って発表するとき、ただスライドを見せるのではなく、色、アニメーションを効果的に使い、聞き手にわかりやすく説明する工夫が必要ということがわかった」

【その他・感想】

⑪ グループ内での人間関係

「もっと他にうまいやり方があるだろうと、みんな思っていたが、どうしようもなく、心にわだかまりが残った」「PCの技量の差がすごく出たと思った。助け合いながらできる反面、頼りがちになってしまうことも…。」「PCができる人の協力を得て、知識をつけることができた」

⑫ PC・パワポスキルの活用

「PCでの発表はこれから必ず必要となってくるため、今のうちにPCを使った発表を多く

行ったほうがよいと思った」「パワポや LINE での使い方がわかるようになってよかった」
「一つのパワポにまとめることで、他のメンバーの担当部分と自分の担当部分を比較することが簡単にできた」

⑬ その他

「視覚と口頭での発表は理解が深まった」「慣れないことをやるチャンスだった」「ずっと逃げてきたパワポに立ち向かうことができ、よい機会だった」「作成にあまり携わることができなくて、報告直前に読むところを確認したため、うまく報告できなかった」「報告スキルが全くないと実感した」

(3) グループワークについて

グループワークについては、役割分担による個人の負担軽減、作業効率の良さ、他学科・他学年の学生との関わり、様々な考え方・視点・アイデアに触れられたことが挙げられた。その結果、学生には人間関係と視野の広がりがもたらされたようである。また、グループのメンバー間で「助け合い」が生まれ、それがさらなる情報の獲得やスキルの学習につながっている。

しかしながら、他学科・他学年にわたるメンバーで構成されたグループであることから、研究・資料作成等のための時間・場所の確保、情報の共有が難しく、学生はかなり苦労しているようである。また、PC・パワポの技量差や役割分担の調整不備によって、メンバー間での作業量に偏りが見られた。一方で、学生の中には、これらの課題を改善しようという意識も芽生えている。

学年・学科が異なるメンバーによるグループワークを通して、学生はさまざまな苦労や不安を経験するとともに、複数人で調整・協力して課題解決に当たることの大変さを認識した。その反面、年齢や専門の異なるメンバーとの出会い、協働による課題解決の作業は、学生により深い人間関係を持つことも促しており、学生は視野の広がりを含めてグループワークの楽しさを見出している。以下、前述の表記方法で記述例を示す。

【良かったところ】

① 役割分担による負担の軽減

「役割分担によって個人の負担が分散できた」「役割分担ができて、個人負担が減った」「役割分担をして、効率よく作業を進めようとしたところ」

② 他学年・他学科の学生との関わり

「他学科の学生とコミュニケーションがあった」「今まで話したことのない学科の人たちと交流ができた」「他学年・他学科の人と組むことで、自分の行動に責任を感じた」「学科が違う

人との関わりが新鮮だった」「さまざまな学科の人と接することができて、楽しかった」

③ **さまざまな考え方・視点・アイデア等視野の広がり**

「いろいろな視点から問題を見られた」「自分の担当しているところに役立つ情報を他の人が提供してくれる」「考え方、アイデア、さまざまな観点での意見交換」「学科が違うので、同じ資料でも着目するポイントが違い、発見が多かった」「一つ一つのものに対して深く知ることができた」「自分が思いつかないような考え、視点で事例を考えることができた」「いろんな意見が聞け、分担することで、一つの事例を細かく見ることができた」

④ **メンバー間による助け合い**

「複数人で調べることで、情報量が増す」「わからないこと（先生に聞きづらいことなど）を聞ける」「一人では、たくさんのパワポや資料を作ることができなかった」「わからないことをグループ内で確認できる」「他の視点から気づいたことなど、自分だけではわからないことを教えてもらえた」

【困ったところ】

⑤ **研究・資料作成等のための時間・場所の確保が困難**

「メンバーの時間が合わないため、なかなか集まれなかった」「学科や学年が違うので、時間を合わせづらい」「集まる場所、資料作成場所が少ない」「学科・学年が違っていたため、時間を合わせて作業することが難しかった」「学科が違うため、授業外で集まりづらい」

⑥ **作業量の偏り**

「一人一人の仕事を平等にできなかった」「役割分担の偏り」「役割分担しても、全員平等の仕事量にはならなかった」「連絡係を決めることで、自分から動くこと（主体性）が薄れてしまった」「分量に違いが出てしまう」「休まれると負担がかかった」「一人一人の負担に偏りが出てしまった」

⑦ **情報共有の難しさ**

「コミュニケーションが苦手であり、あまり会話に入っていけなかった」「情報共有が難しい」「みんなが作るパワポの様式がばらばらだった」「実習で抜けていた分、話し合いについていけなかった」「集まるのが難しく、だれがどこまで進んでいるか分からなかった」

【気づいたこと・改善点】

⑧ **役割分担・調整等グループ内での課題**

「どうにもできないと思う。役割分担でいっぱい、いっぱい」「役割分担の比重がそれぞれ違ったので、改善したほうが良いと考えた」「実習で抜けた分、自分の担当のところが少ない、他の人の負担を大きくしてしまったので、後ろめたかった」「もう少し役割分担をする

べきだった」「他の人に任せそうになった」

⑨ PC・パワポに関わる課題

「パワポの使い方がわからないメンバーに、より丁寧に教える時間があればよかった」「パワポの様式をあらかじめ決めておけばよかった」「PCを使っているのに、情報共有がアナログだった」「PCなどで情報共有するも、最後は顔を合わせて打ち合わせが必要ということを感じた」

⑩ 情報共有の課題

「グループ通話の活用、スクリーンショットでの共有をすればよかった」「LINEなどで、情報を共有すべきであった」「もっと連絡を密にしていればよかった」

⑪ その他

「もっと上手にパワポにまとめられたら、よりよい発表になったのに、と思った」「4人ぐらいがちょうどいい人数」「時間が合わないが、改善しようがないので、写真を撮って共有し合うことが大切」「早めに行動するのが大事、ぎりぎりで大変なことになる」「最初に集まる日を決める」「手伝いを率先してやる」

【その他・感想】

⑫ 人間関係の広がり

「普段関わることができない人たちと関わってよかった」「他学科の学生と関わることができて、とても新鮮で楽しかった」「違う学科ということもあり緊張したが、同じ学科の子より相手のことを考えて行えた」「他学科とのグループワークでは意見なども言いづらく、同じ学科とやるよりもやりづらかったが、その分、伝え方や考え方などを丁寧にすることを心掛けてやることができた」

⑬ 視野の拡大（事例、資料、考え方）

「グループワークで取り組んだので、いろいろな視点から物事を見ることができた」「事例を各班でそれぞれ研究しているので、全ての事例に目を通すことができてよかった」「グループでスライドを作ると資料が集まり、理解が深まる」「グループ活動なので、自分とは違う考えを知ることができた」

⑭ 大変さ・難しさ・楽しさ

「協力して行うグループワークは大変だったが、終わった後は達成感があった」「いろいろな人と交流ができて楽しかった。グループワークにもっと挑戦してみたい」「やれることをやるよと言いつつ、何をしたらよいかわからないまま終えてしまったのがよくなかったと思うので、もう少し考えて行動に移せるようになりたいと思った」「時間が合わなくて任せき

りになってしまった。経験値がなくて、何をどうしたらよいかわからないことがあった」

(4) 授業全体についての感想

授業全体についての感想は、グループワークとICTの活用に関わることに集中した。グループワークに関わることでは、人間関係構築の難しさ、信頼関係を築いた時の楽しさ、学生自身の成長への気づき、グループ運営やワーク自体の楽しさなどが挙げられた。また、ICTの活用については、PCを活用した授業そのものに対する肯定的な意見、今後必要とされるPCのスキル獲得につながる授業運営への評価であった。以下、項目ごとに記述例を示す。なお、引用の下線は筆者による。

① グループワークに関わることー人間関係ー

- 普段関わりがない人とのグループワークは大変だったが、信頼関係を築き、協力して作業を行うことで、お互いをより深く知ることができて楽しかった。PCの作業は苦手だったが、教えてもらうことで新しい知識も得ることができて、とても勉強になった
- グループワークを他学科の人で行うということで、最初はかなり不安だったが、何とか最終的にまとまったのでよかった
- 自分のグループで年上の人がいる中で、楽しくグループワークができた

② グループワークに関わることー学生自身の成長ー

- 他学科で授業が合わない分、昼休みだったり空き時間だったり…。結局、全員で集まった日はなかったので、できるときにコツコツ作っていく感じだった。・・・(中略)・・・みんなが終わるまで待つのは、正直、もういやだ。(笑)でも、沢山話していく中で、同じ免許の人もいて、仲良く楽しく作れたのでよかった。今後もつながりを大切にしたいと思う
- 学科が違うグループでの活動はとても大変だったけれど、今まで話したことのない人たちと交流ができたし、自分自身の成長につながったと思う。『生徒指導提要』の内容について無知だとわかり、もっと勉強しようと思った
- 学科が異なる人とグループになり、話し合いをすることが最初は戸惑っていた。少しずつ話せるようになり、情報を共有できたり、たまたま会ったときに挨拶をしたりするようになったのが、自分の中の成長があったと感じた。これからも、グループ一緒だった人とつながってほしいと思った

③ グループワークに関わることー難しさ・楽しさー

- グループ活動をすることで、多くの考えを知ることができたり、自分とは違う視点や考えを持つ人がいることで、自分にとっても良いことがたくさんあった。また、PCを使っていた

ので、使い方も知ることができたのでよかった。うまく情報が共有できなかつたり、進むペースが違うことがあり、まとまるか心配だったが、最終的にまとまったのでよかった

- 全体的に大変だった。グループをまとめることや、やらなければならないことの方角を示すことが大切だと実感した
- 報告事例ではあまり協力ができず発表になったが、もう一方の事例で協力することができたので、最後くらいは役に立てたかなと思った。グループワークの重要性がわかってよかった

④ グループワークに関わることー筆者の授業運営ー

- 自分が担当した事例の指導方法だけではなく、他の事例の対応も知ることができたのでよかった
- 全く分からないことだらけの内容だったので、すごく勉強になった。また、PCを使うことは想像以上に難しいということがわかった。グループワークの素晴らしさを知ることができた
- 他の授業ではパワポを使うことがほとんどないので楽しかったし、グループワークがこんなに難しいとは思わなかった。良いメンバーに恵まれたと思う。さまざまな事例を研究できて、ためになった
- 発表方法やパワポなど、グループによってさまざまだったので、いろいろと参考になるものがあった。正直、『個人発表のほうがいいな』と思うこともあったが、グループ発表もまた良い経験になったと思う

⑤ ICTの活用に関わること

- これからPCやスマホのような電子機器を使用した授業やプレゼンが増えるから、この授業のように、今体験しておくことはすごく良いと思った
- PCを使った授業が少ないので、とても新鮮だった。今後も、効果的にPCを使った授業が増えると、学生も受け身の姿勢ではなく、主体的に授業に取り組めるのではないかな、と思った
- PC教室を使つての授業はあまりないため、グループワークでPCを使えたことはすごく良かった。情報も集めやすかった
- 他学科とともにグループワークをしたり、交流ができてよかった。学校現場において、今後使えるスキルを身につける経験になった

おわりに

以上のことから、教職科目「生徒指導」の教授・学習方法として、ICTを活用したアクティブ・ラーニングの可能性についてまとめたい。

PCを活用した的確かつ迅速な情報収集／共有／内容の把握は、事例研究を行う上で有効であったと思われる。最新の多量な情報・知識を得ることは、多面的な視点の獲得につながる。もちろん、事例解決への応用という観点からは、適切な情報の取捨選択が重要であることは言うまでもない。その点では、適切で正確な情報収集の重要性に気づいた学生の存在など、学生はPCを活用した事例研究の過程で実践的に適切な情報選択の方法を学んでいると思われる。その結果、学生は「生徒指導」の授業運営に対して、「今後必要とされるPCスキルの獲得につながる」という感想を持ったのであろう。

なお、今年度の授業では情報の信憑性を確保するために、原則として公的機関のHP上の情報を活用することとした。今後は、NPOやNGOなどの非営利団体、新聞のデータベース上の情報の取り扱いについて検討する必要があるだろう。インターネットによる情報収集上の課題は、メディア・リテラシーに関わる問題のひとつであるが、とりわけ、教職を目指す学生に対しては、「情報モラルの育成」という視点からも継続的に取り組むことが求められる。

「生徒指導」の授業で採用したグループワークは、アクティブ・ラーニングの有効な方法のひとつであるが、それを「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」とするためには、適切な指導方法と学習環境の設計が必要となる。本授業実践では、結果的に、ICTの活用が学習者の能動的な学習を可能にする適切な学習環境を設計したと思われる。

また、今回の授業実践では、事例の課題解決過程がPCスキルの向上につながっているということも分かった。すなわち、ICTを活用したグループワークはメンバー間に協働意識を形成し、それがさらなる情報収集やスキル学習を促進するという双方向の学習を可能にしていると考えられる。メンバー間での助け合い＝協働は、PC・パワポの知識・技能の差がグループ内での作業の偏りとメンバー間の不平等感を生じさせた場合にも、それらの課題を解決しようとする意識の形成につながっている。

教職を目指す学生であっても、必ずしもコミュニケーション能力が高いとは限らない。特に、学年・学科が異なる学生同士の場合、話し合いが始まらない／続かないことも多い。しかしながら、「事例研究をグループで行い、解決策をメンバー全員で発表し、報告書としてまとめる」という学習方法を設定されたことにより、学生は、課題解決に協働で取り組めるような人間関係を構築しなければならなくなる。協働を可能にする人間関係の構築は難しい。そのため、グ

ループワークという複数人での課題解決の大変さは、学生に「本当に、大変だった」「正直、個人発表のほうが良かったと思うこともあった」という感想をもたらしている。反面、学生は、それらを乗り越えることが教職に必要な経験であることも認識している。だからこそ、協働を可能にする人間関係に基づいたグループワークの楽しさ・大切さを発見できたのであろう。

最後に、本授業実践から見えてきた課題をまとめておく。まず、学生が『生徒指導提要』で求められるような基礎理論を習得したかの確認が難しい、という点である。筆者は事例研究発表時に、『生徒指導提要』の関連事項を確認・指導しているが、それが学生に知識・技能として定着しているかは分からない。

次に、個々の学生の PC スキルの格差が授業への参加意欲を下げる可能性である。今回のアンケート記入内容から、履修学生間の PC スキルの格差が推察された。大学入学以前に PC の授業を経験している学生がいる一方で、PC に触れる機会がほとんどない学生も見られた。教職必修科目として「情報機器の操作」が設定されているが、半期 15 回 2 単位の履修だけではなく、学生には継続的な学習の機会を設定する必要があるかもしれない。これらは、次年度以降の課題である。

【資料】

「生徒指導」アンケート

このアンケートは、今後の授業改善と授業実践報告・論文作成のための資料として用いることを目的に実施します。したがって、あなたの成績や人物評価に関係することはありません。各項目について、正直に回答してください。よろしくお願いします。

なお、回答用紙への記入を以って、アンケート結果を資料として使用することを承諾していただいたこととします。

「生徒指導」担当 内海崎貴子

1. PC を使用した事例研究の情報収集について
 - 1) 良かったところ
 - 2) 困ったところ
 - 3) 気づいたこと・改善点
 - 4) その他・感想
2. PC 等を利用した事例研究の報告方法について
 - 1) 良かったところ
 - 2) 困ったところ
 - 3) 気づいたこと・改善点
 - 4) その他・感想

ICTを活用した教職科目「生徒指導」の授業展開

3. グループワークについて
 - 1) 良かったところ
 - 2) 困ったところ
 - 3) 気づいたこと・改善点
 - 4) その他・感想
4. 授業全体についての感想

【注】

- 1 中央教育審議会『これからの学校教育を担う教員の資質向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申）』2015（平成27）年12月21日，p.16
- 2 川島啓二「アクティブ・ラーニングを問い直す―教員養成の観点から―」『2016年度関東地区教職課程研究連絡協議会研究大会配布資料』2016，s.5
- 3 高口努「アクティブ・ラーニングの先行事例」『平成27年3月26日教育課程企画特別部会資料4 資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究』2015，s.16
- 4 文部科学省『生徒指導提要』教育図書，2010，p.1
- 5 同上，p.3
- 6 プレゼンに際しては，以下の「『生徒指導』発表／報告の仕方」を配布した。
 1. 発表／報告の手順
 - (1) メンバーの氏名を紹介
 - (2) 取り扱う事例とその概要の説明
 - (3) 各事例においてグループが取り組んだ問題点の確認，およびその解決課題の説明
 - (4) 課題解決に当たってグループが取り組んだ解決方法／資料・事例収集等の紹介
 - (5) 解決の結果
 - (6) 未解決の問題点，今後の課題
 2. 発表／報告の形式
 - (1) 時間：40分間
 - (2) 形式：各グループで工夫すること
 - (3) 原則としてパワーポイントにより資料作成のこと
 - (4) グループのメンバー全員が発表すること
- 7 現在，教育現場では，指導案の作成から成績処理，指導要録の管理などPCのスキルは必須である。

【引用・参考文献】

- 川島啓二，「アクティブ・ラーニングを問い直す―教員養成の観点から―」『2016年度関東地区教職課程研究連絡協議会研究大会配布資料』，2016
- 河村茂雄編著，『生徒指導・進路指導の理論と実際』，図書文化，2011
- 国立教育政策研究所 生徒指導研究センター，『生徒指導第3集 規範意識をはぐくむ生徒指導体制―小

内海崎 貴 子

- 学校・中学校・高等学校の実践事例 22 から学ぶ』, 2008
- 杉原真晃, 「教員養成からアクティブ・ラーニングをとらえなおす」, 『2016 年度関東地区教職課程研究連絡協議会研究大会配布資料』, 2016
- 高口努, 「アクティブ・ラーニングの先行事例」, 『平成 27 年 3 月 26 日教育課程企画特別部会資料 4 資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究』, 2015
- 中央教育審議会, 『これからの学校教育を担う教員の資質向上について～学び合い, 高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～ (答申)』, 2015 (平成 27) 年 12 月 21 日
- 日本生徒指導学会編著, 『現代生徒指導論』, 学事出版, 2015
- 日本生徒指導学会, 『文部科学省 平成 25 年度 いじめ対策等生徒指導推進事業集 生徒指導実践事例集』, 2013
- 長谷川敬三ほか編, 『事例で学ぶ生徒指導・進路指導・教育相談—小学校編—』, 遠見書房, 2014
- 長谷川敬三ほか編, 『事例で学ぶ生徒指導・進路指導・教育相談—中学校・高等学校編—』, 遠見書房, 2014
- 文部科学省, 『生徒指導提要』, 教育図書, 2010
- 和栗百恵, 「『ふりかえり』と学習—大学教育におけるふりかえり支援のために—」, 『国立教育政策研究所紀要』, 第 139 集, 2010

* 謝辞: 本稿作成に当たり, 資料としてコメントカードの使用とアンケートに協力してくれた履修学生に感謝したい。